

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：6月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●7月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表4)、**6月の訪日外客総数(推計値)は313万5,600人**であった(前年同月比+51.2%)。東南アジアなどにおいて学校休暇や祝日を含む連休があった影響もあり、**単月として過去最高値を更新した**。また、同月の出国日本人数は93万200人となり(同+32.3%)、前月(94万1,700人)から幾分減少した。結果、**4-6月期の訪日外客数は921万8,703人**となった(前年同期比+55.7%)。また、同期の出国日本人数は276万667人であった(同+42.4%)。

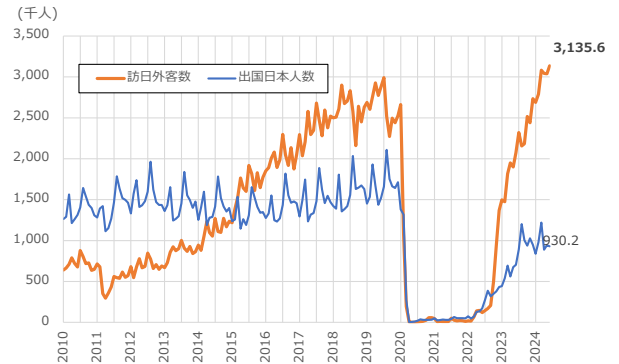
▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表4)、**6月は韓国が70万3,300人**(前年同月比+29.0%)と**最多**であった。次いで中国が66万900人(同+216.9%)、台湾が57万4,500人(同+47.7%)、米国が29万6,400人(同+30.7%)、香港が25万600人(同+34.5%)と続く。なお、**米国と台湾が過去最高値を更新した**。

▶目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図3及び表5)、**4月は304万3,003人**となった(2019年同月比+4.0%*)。うち、**観光客は276万3,384人**と**7か月連続で200万人を超える水準**となった(同+4.7%)。商用客は9万8,685人(同-28.2%)、**その他客は18万934人**(同+21.6%)であった。**観光客は7か月連続で、その他客は4か月連続でそれぞれプラス**となった。

▶観光客のTOP5を国・地域別にみれば(表4)、**4月は韓国が63万2,616人**(2019年同月比+21.2%)と**最多**であった。次いで中国が45万6,835人(同-29.5%)、台湾が44万6,403人(同+15.5%)、米国が21万4,378人(同+44.8%)、香港が18万805人(同-5.1%)と続く。なお、**フランス、イタリアと中東地域が過去最高値を更新した**。

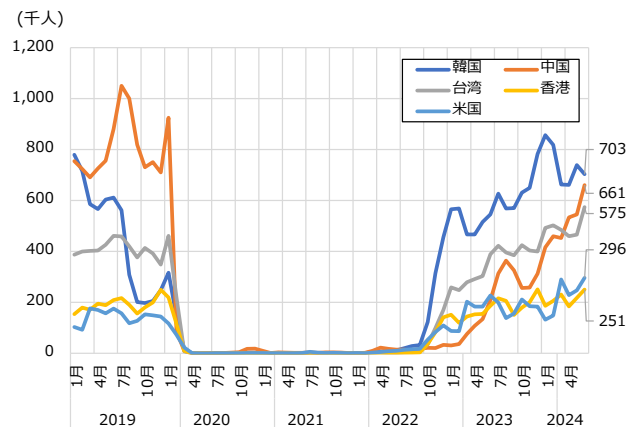
▶先行きの訪日外客数は引き続き増加が見込まれる。7月からアジアや欧米地域では夏季休暇が始まることもあり、訪日旅行需要の増加が期待されている。なお、1-6月累計の訪日外客数は1,777万7,200人と、コロナ禍前の水準(1,663万3,614人)を上回った。これは年率に換算すると、3,555万人となり、2025年までに19年超の水準(3,188万人)とする政府目標を24年に達成する可能性が高い。一方で、**宿泊業等における人手不足や観光地へのオーバーツーリズム問題が深刻化している。急増する訪日外客の受け入れ体制の整備に加え、観光地の広域・周遊化を促進するプログラムの造成が重要**となろう。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



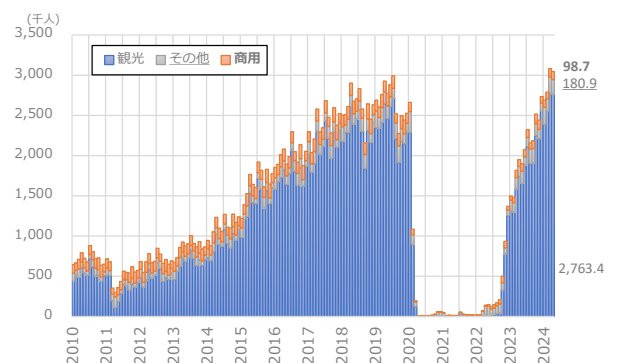
出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 2022年まで確定値、23年、24年1-4月は暫定値、24年5-6月は推計値

図2 上位5カ国国・地域別訪日外客数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図3 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2か月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*なお、政府が水際対策を撤廃してから1年が経過したため、本稿では5月以降のデータについては伸び率を前年同月と比較している。それ以前の月次統計については19年同月比としている。

トピックス 1

● 6月関西の財貨・サービス貿易及び5月のサービス産業動向

▶ 関西 6月の輸出額は前年同月比+2.0%と2カ月連続で増加した(前月:同+10.4%)。また、輸入額は同+1.5%と3カ月連続の増加(前月:同+8.1%)。関西の貿易収支は+2,904億円と5カ月連続の黒字となり、黒字幅は同+4.4%拡大した(前月:同+62.1%)(図4)。結果、4-6月期の貿易収支は+5,869億円と7四半期連続の黒字だが、黒字幅は前年同期比-0.5%小幅縮小した(1-3月期:同+191.6%)。

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、関西6月の対中輸出は前年同月比+0.2%と4カ月連続の増加だが、増加幅は前月(同+13.3%)から縮小した。輸出増に寄与したのは半導体等製造装置や非鉄金属等であった。また、対中輸入は同+1.3%と3カ月連続の増加だが、前月(同+11.7%)から小幅拡大にとどまった。輸入増に寄与したのは通信機やがん具及び遊戯用具等であった。4-6月期の対中輸出は前年同期比+6.1%と2四半期連続で増加(1-3月期:同+4.1%)。また、対中輸入は同+6.2%と5四半期ぶりの増加に転じた(1-3月期:同-8.8%)。

▶ 6月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は81万2,689人となり、開港以来、初めて80万人超の水準となった(前月:79万8,812人)(図6)。前年同月比では+47.1%大幅増加(前月:同+59.4%)。また、日本人出国者数は17万1,878人であった(前月:17万5,678人)。前年同月比では+43.9%と大幅増加(前月:同+54.7%)。結果、4-6月期の訪日外客数は238万4,361人となり、3四半期連続の200万人超となった(前年同期比+56.3%)。一方、日本人出国者数は50万5,681人と(同+58.7%)、1-3月期(57万6,321人)から幾分減少した。

▶ 5月のサービス業の活動は一進一退で推移している(図7)。サービス業の生産活動を示す第3次産業活動指数(季節調整済み:2015年平均=100)をみれば、5月は101.6で前月比-0.4%低下し、2カ月ぶりのマイナスとなった(前月:同+2.2%)。また、対面型サービス業指数*は94.2で同-2.2%低下し、2カ月ぶりのマイナス(前月:同+7.6%)。うち、運輸業(同-4.5%、2カ月ぶり)や宿泊業(同-5.3%、2カ月ぶり)が低下に寄与した。

▶ 観光関連指数**(2015年平均=100)は、91.4と前月比-0.1%小幅低下し、2カ月ぶりのマイナスとなった(前月:同+0.7%)。うち、鉄道旅客運送業(同-3.2%、2カ月ぶり)や旅客運送業(同-2.0%、2カ月ぶり)が低下に寄与した。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト動向」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

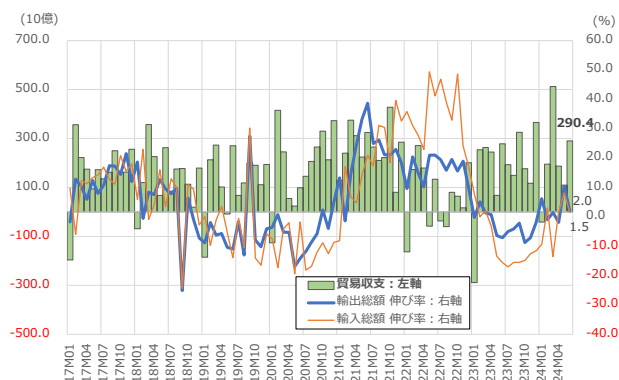
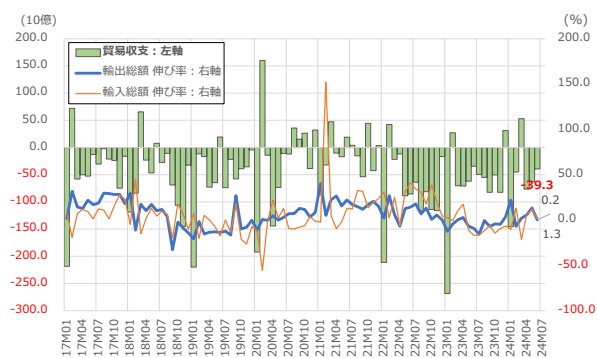
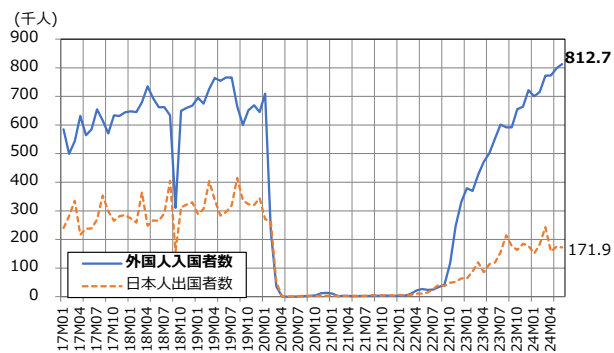


図5 関西 対中貿易の推移



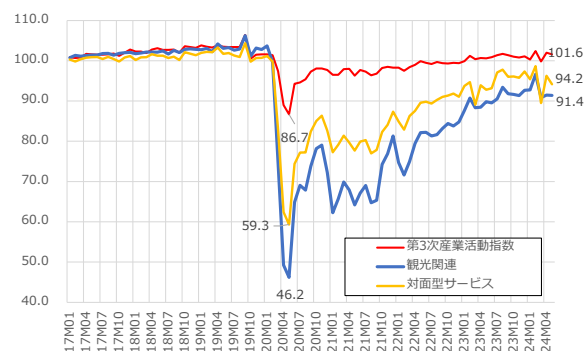
出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2024年6月値は速報

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業:2015年=100



出所:経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●4月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、4月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**11,562.1千人泊**であった(表1)。2019年同月比+3.5%と8カ月連続の増加だが、増加幅は前月(同+7.9%)から縮小した。

▶日本人延べ宿泊者数は**7,264.9千人泊**となった。2019年同月比-4.9%と8カ月ぶりの減少に転じた(前月：同+0.1%)(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,504.3千人泊、京都府1,369.9千人泊、兵庫県1,142.3千人泊、三重県681.6千人泊、滋賀県371.1千人泊、和歌山県300.2千人泊、福井県282.7千人泊、鳥取県220.6千人泊、徳島県198.2千人泊、奈良県194.0千人泊であった。2019年同月比でみると、**京都府(同-16.0%)、和歌山県(同-21.9%)や滋賀県(同-11.7%)**等がマイナスとなり、日本人延べ宿泊者の減少に寄与した。

▶外国人延べ宿泊者数は**4,297.2千人泊**となり、過去最高値を更新した。2019年同月比+21.6%と9カ月連続のプラス。増加幅は前月(同+30.3%)から縮小したもの、8カ月連続で2桁の伸びが続いている(表1及び図9)。日本人延べ宿泊者が減少した一方、外国人延べ宿泊者は堅調に推移している。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,187.8千人泊、京都府1,733.1千人泊、兵庫県142.9千人泊、和歌山県78.8千人泊、奈良県46.0千人泊、滋賀県41.7千人泊、三重県32.0千人泊、徳島県16.9千人泊、福井県9.2千人泊、鳥取県8.7千人泊であった。なお、**京都府と兵庫県は過去最高値を更新した**。2019年同月比でみると、**大阪府(同+30.1%)、京都府(同+20.3%)、兵庫県(同+10.1%)や徳島県(同+27.7%)**がそれぞれプラスとなり、外国人延べ宿泊者の増加に寄与した。

▶関西2府8県延べ宿泊者を居住地別でみると(図10)、県内の延べ宿泊者数は**1,372.8千人泊**(2019年同月比-1.2%)、県外は**9,855.4千人泊**(同+7.6%)であった。**県内は31カ月ぶりのマイナスに転じた一方、県外(含む外国人)は8カ月連続のプラス**となった。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

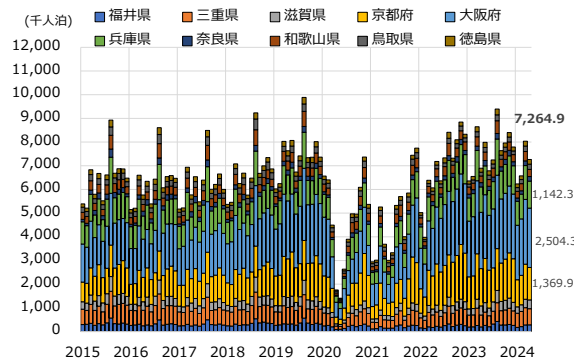


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

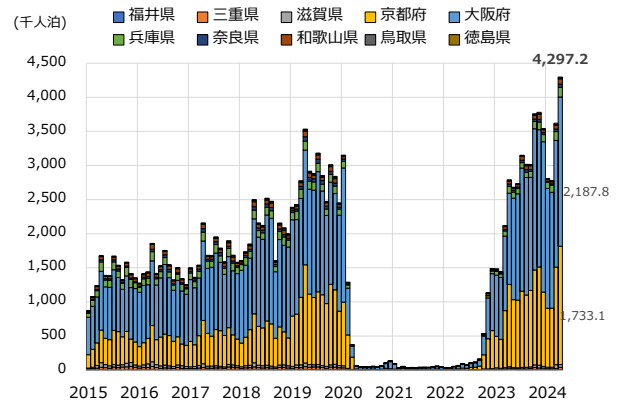
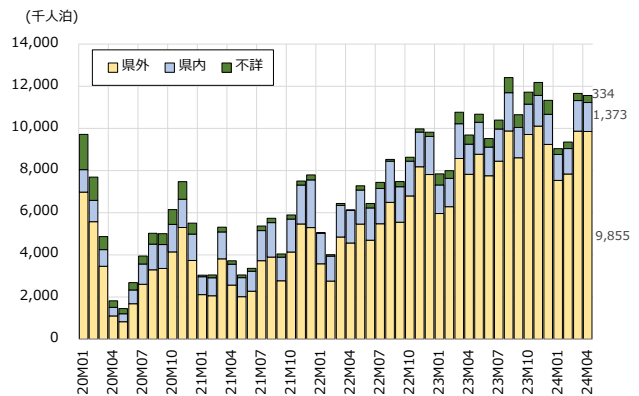


図10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：4月

2024年4月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	19年比伸び率： 当月(%)	19年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	19年比伸び率： 当月(%)	19年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	19年比伸び率： 当月(%)	19年比伸び率： 前月(%)
福井県	292.0	-9.2	-13.8	282.7	-8.8	-14.2	9.2	-18.9	12.6
三重県	713.6	-4.8	-6.7	681.6	-3.9	-5.2	32.0	-20.6	-44.9
滋賀県	412.8	-12.7	-2.6	371.1	-11.7	-7.1	41.7	-21.2	39.6
京都府	3,103.1	1.1	8.3	1,369.9	-16.0	-12.8	1,733.1	20.3	44.4
大阪府	4,692.2	13.6	12.6	2,504.3	2.3	4.1	2,187.8	30.1	28.1
兵庫県	1,285.2	5.0	16.4	1,142.3	4.4	18.6	142.9	10.1	-2.8
奈良県	240.0	-11.4	4.8	194.0	-5.4	8.1	46.0	-30.1	-10.6
和歌山県	379.0	-19.0	-3.7	300.2	-21.9	-4.3	78.8	-5.5	1.0
鳥取県	229.3	-2.5	2.2	220.6	0.5	5.7	8.7	-44.0	-41.1
徳島県	215.1	-5.5	3.4	198.2	-7.5	-0.1	16.9	27.7	63.3
関西2府4県	10,112.2	4.9	10.2	5,881.8	-4.9	1.3	4,230.4	22.5	31.6
関西2府8県	11,562.1	3.5	7.9	7,264.9	-4.9	0.1	4,297.2	21.6	30.3
全国	51,896.2	2.3	7.7	37,394.5	-5.2	1.2	14,501.7	28.5	36.4

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(図8~10及び表1)より筆者作成

トピックス 3

● 2024年4-6月期訪日外国人消費の動向

▶観光庁によれば、2024年4-6月期の訪日外国人消費額(速報、全目的ベース)は2兆1,370億円となり(図11)、**四半期調査としては過去最高額を更新した**(1-3月期:1兆7,505億円)。**前年同期と比較すると+73.5%と大幅増加**。なお、コロナ禍前の19年同期比では+68.6%と4四半期連続の増加となった(1-3月期:同+53.7%)。桜の開花シーズンによる訪日旅行需要の増加に加え、円安の影響もあり1人当たりの旅行支出が増加した。

▶訪日外国人消費のトップ5を国・地域別にみれば(図12)、**中国が4,420億円(前年同期比+187.0%)と最多**であった。次いで、**米国が2,781億円(同+57.8%)**、**台湾が2,639億円(同+51.1%)**、**韓国が2,232億円(同+53.0%)**、**香港が1,743億円(同+85.8%)**と続く。

▶**一般客1人当たり旅行支出(全目的)は23万8,722円**となった。**前年同期比+14.4%と3四半期連続のプラス**(1-3月期:同+0.0%)。国・地域別にみれば(表2)、**フランスが41万7,536円(同+43.8%)と最も高い**。次いで、**英国が41万6,647円(同+97.5%)**、**オーストラリアが39万9,862円(同+20.3%)**、**イタリアが38万2,448円(同+23.8%)**、**スペインが36万1,187円(同+20.4%)**となっている。

▶4-6月期の1人1泊当たり旅行支出をみれば(表3)、**2万8,085円**となり、**前年同期比+30.8%増加**した。費目別では、**宿泊費が9,322円(同+24.3%)と最も多く**、次いで**買物代8,591円(同+56.5%)**、**飲食費6,148円(同+20.8%)**、**交通費2,940円(同+15.2%)**、**娯楽等サービス費1,045円(同+27.3%)**と続いている。4-6月期は、**買物代が大幅増加したことに加え、娯楽等サービス費や宿泊費が着実に増加しているのが特徴的**である。なお、**平均泊数は前年同期差-1.2泊減少**した。

*トピックス3は四半期ごとの掲載である。

**「全目的」とは、観光・レジャー目的以外に、業務、留学、親族・知人訪問等の目的の旅行者を含む。ただし、1年未満の滞在者が対象である。

図11 訪日外国人消費額の推移

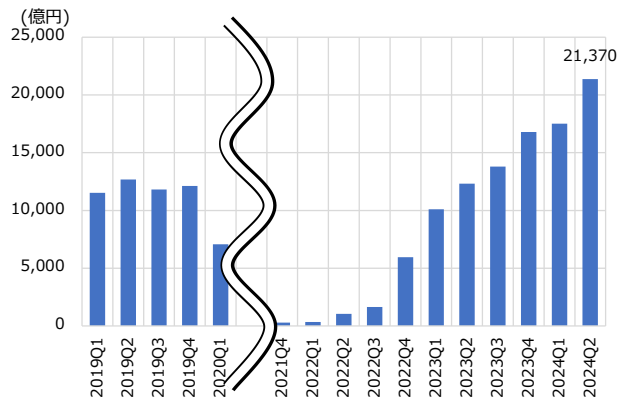
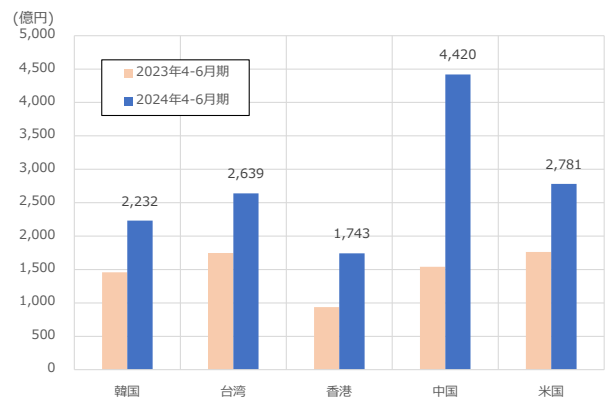


図12 訪日外国人消費額の上位5か国・地域：2024年4-6月期



(注)「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加えビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。「クルーズ客」は船舶観光上陸許可者。2023年までは確報、24年4-6月期は速報。
出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より作成(図11も同様)

表2 国・地域別一般客1人当たり旅行支出(全目的)：2024年4-6月期

国・地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム
2023年4-6月期(円/人)	208,665	96,141	177,473	190,005	343,630	199,334	292,511	235,636	195,476	172,797	183,798
2024年4-6月期(円/人)	238,722	106,747	181,162	269,748	286,244	203,409	323,781	189,538	216,774	177,486	213,305
前年同期比(%)	+14.4	+11.0	+2.1	+42.0	-16.7	+2.0	+10.7	-19.6	+10.9	+2.7	+16.1
国・地域	インド	英国	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	ロシア	米国	カナダ	オーストラリア	その他
2023年4-6月期(円/人)	242,238	348,655	314,718	290,380	309,010	299,890	-	296,671	274,582	332,298	317,852
2024年4-6月期(円/人)	269,235	416,647	345,696	417,536	382,448	361,187	-	344,393	361,117	359,217	399,862
前年同期比(%)	+11.1	+19.5	+9.8	+43.8	+23.8	+20.4	-	+21.7	+30.8	+20.3	+22.1

表3 一般客1人1泊当たり旅行支出(全目的)：2024年4-6月期

1人1泊当たり旅行支出	総額	費目別						平均泊数(泊)
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2023年4-6月期(円/人)	21,451	7,499	5,091	2,552	821	5,488	1	9.7
2024年4-6月期(円/人)	28,055	9,322	6,148	2,940	1,045	8,591	8	8.5
前年同期比(%)	+30.8	+24.3	+20.8	+15.2	+27.3	+56.5	+1,001.7	-1.2

(注) 2023年4-6月期のロシアについては全国籍・地域の集計対象には含んでいるが、十分な回答数が確保できておらず、ロシア単体での公表は行っていないため、“-”としている。

出所：観光庁『インバウンド消費動向調査』より作成。

表4 2024年6月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)
	6月	6月		1-6月	1-6月	
総数	2,073,441	3,135,600	51.2	10,712,396	17,777,200	65.9
総数(中国除く)	1,864,868	2,474,700	32.7	10,117,628	14,709,200	45.4
韓国	545,089	703,300	29.0	3,128,476	4,442,100	42.0
中国	208,573	660,900	216.9	594,768	3,068,000	415.8
台湾	388,976	574,500	47.7	1,770,618	2,979,200	68.3
香港	186,324	250,600	34.5	909,761	1,276,100	40.3
タイ	51,351	54,600	6.3	497,799	618,300	24.2
シンガポール	54,568	58,900	7.9	252,703	300,000	18.7
マレーシア	22,009	22,000	0.0	194,252	241,800	24.5
インドネシア	39,276	43,000	9.5	201,656	263,800	30.8
フィリピン	54,227	65,000	19.9	277,142	401,700	44.9
ベトナム	38,873	47,400	21.9	300,898	331,900	10.3
インド	14,202	19,900	40.1	79,438	121,900	53.5
豪州	42,424	61,800	45.7	274,785	462,000	68.1
米国	226,806	296,400	30.7	972,208	1,342,900	38.1
カナダ	30,016	41,000	36.6	183,266	272,300	48.6
メキシコ	6,753	10,800	59.9	34,906	64,000	83.3
英国	20,417	28,800	41.1	150,161	218,400	45.4
フランス	17,714	23,100	30.4	122,134	184,300	50.9
ドイツ	13,655	16,600	21.6	106,715	157,600	47.7
イタリア	10,248	15,000	46.4	59,364	96,100	61.9
スペイン	8,693	12,900	48.4	39,530	65,900	66.7
ロシア	2,381	5,600	135.2	16,182	41,100	154.0
北欧地域	11,389	14,400	26.4	53,066	73,700	38.9
中東地域	9,135	14,100	54.4	51,957	75,200	44.7
その他	70,342	95,000	35.1	440,611	678,900	54.1

表5 2024年4月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2024年	伸率(%)	2019年	2024年	伸率(%)	2019年	2024年	伸率(%)	2019年	2024年	伸率(%)
	4月	4月		4月	4月		4月	4月		4月		
総数	2,926,685	3,043,003	4.0	2,640,569	2,763,384	4.7	137,353	98,685	-28.2	148,763	180,934	21.6
韓国	566,624	661,259	16.7	521,904	632,616	21.2	28,345	15,614	-44.9	16,375	13,029	-20.4
中国	726,132	533,611	-26.5	647,544	456,835	-29.5	27,128	23,139	-14.7	51,460	53,637	4.2
台湾	403,467	459,723	13.9	386,461	446,403	15.5	9,702	7,271	-25.1	7,304	6,049	-17.2
香港	194,806	184,460	-5.3	190,540	180,805	-5.1	2,995	1,950	-34.9	1,271	1,705	34.1
タイ	164,817	142,521	-13.5	159,604	138,254	-13.4	2,647	1,871	-29.3	2,566	2,396	-6.6
シンガポール	36,704	46,324	26.2	33,387	44,052	31.9	2,990	1,934	-35.3	327	338	3.4
マレーシア	46,092	45,983	-0.2	42,857	43,626	1.8	2,209	1,228	-44.4	1,026	1,129	10.0
インドネシア	39,768	62,515	57.2	34,327	52,682	53.5	1,942	811	-58.2	3,499	9,022	157.8
フィリピン	69,266	68,499	-1.1	62,010	59,330	-4.3	2,215	4,318	94.9	5,041	4,851	-3.8
ベトナム	55,295	61,607	11.4	25,092	25,035	-0.2	3,407	2,811	-17.5	26,796	33,761	26.0
インド	18,376	23,162	26.0	11,410	16,333	43.1	4,288	3,739	-12.8	2,678	3,090	15.4
豪州	70,504	80,812	14.6	66,968	78,376	17.0	2,491	1,706	-31.5	1,045	730	-30.1
米国	170,247	228,900	34.5	148,005	214,378	44.8	17,540	10,732	-38.8	4,702	3,790	-19.4
カナダ	38,897	52,118	34.0	36,313	50,445	38.9	1,763	1,003	-43.1	821	670	-18.4
メキシコ	8,222	11,786	43.3	7,699	11,380	47.8	273	228	-16.5	250	178	-28.8
英国	44,537	48,407	8.7	39,068	44,004	12.6	3,936	2,749	-30.2	1,533	1,654	7.9
フランス	46,005	51,619	12.2	41,140	48,289	17.4	3,410	1,968	-42.3	1,455	1,362	-6.4
ドイツ	27,829	36,029	29.5	23,063	32,425	40.6	3,881	2,899	-25.3	885	705	-20.3
イタリア	24,062	24,855	3.3	22,069	23,191	5.1	1,475	1,072	-27.3	518	592	14.3
ロシア	13,787	10,748	-22.0	11,043	9,268	-16.1	2,010	960	-52.2	734	520	-29.2
スペイン	13,858	11,722	-15.4	12,813	10,902	-14.9	643	515	-19.9	402	305	-24.1
中東地域	13,352	23,157	73.4	11,969	22,137	85.0	853	608	-28.7	530	412	-22.3
その他	134,038	173,186	29.2	105,283	122,618	16.5	11,210	9,559	-14.7	17,545	41,009	133.7

注) 目的別訪日外客数の定義については、図3 注参照。

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2024年7月20日付より筆者加工